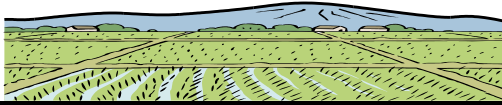


学校だより 5月号

令和6年5月17日(金)

「誇・光・力」

錦江中!



失敗を糧に前に進む

校長 平國 弘明

何かにチャレンジすれば、うまくいけばいいが、うまくいかないこともある。かけてきた時間や情熱が大きければ大きいほど、失敗したときのショックは計り知れないが、ダメだったで終わっては何の成長もない。

令和6年2月17日。H3ロケット2号機が打ち上げられ、成功した。

日本の主力ロケットがH2シリーズから新型のH3に変わろうとしていることは多くの人が知っていると思う。昨年3月7日、開発費2000億円以上およそ10年を要し完成したH3ロケット初号機。轟音と打ち上がった。しかし、わずか14分後に地上からのリモートにより爆破されることになった。第2段エンジンが点火しなかったからである。

ロケットには、国が280億円を投じて開発した防災の切り札とされた地球観測衛星「だいち3号」も積まれていた。ロケットもろとも失った。その情景を目の当たりにした関係者。呆然とする人、頭を抱える人、落胆の声やため息を漏らす人などが画面に映し出された。ショックは計り知れないものであることが伝わってきた。

宇宙をめぐる国際競争は、激しさを増している。海外では、国家だけでなく、民間もこの事業に参入しつつある。2023年に世界で成功した打ち上げ回数はなんと212回に及び、うちアメリカ108回、中国68回、ロシア19回。日本は僅かに2回である。宇宙ビジネスには、ロケット打ち上げの国際競争力を高める必要がある。その課題は、打ち上げのコストの削減と回数の大幅増、そして何よりも信頼度を高めなくてはならない。

H3の開発は、日本の宇宙開発の根幹を成すものである。立ち止まるわけにはいかない。JAXAプロジェクトマネージャー岡田匡史氏を中心に失敗の原因究明が進められた。「なぜ、第2段エンジンは点火しなかったのか?」しかし、それは難航を極めた。起きた結果をもとに考えられる要因をすべて洗い出し1つずつ検証していく。気の遠くなるような作業の繰り返しである。そもそも、ロケットに使われている部品や装置は、どれも厳しい検査をくり抜けている。それでも想定していなかったことが起きていないかも知れ、検証していく。再現実験も行ったがいずれも異常はなかった。時間ばかりが過ぎていった。

そんな中、助っ人が現れる。H3プロジェクト電気班責任者のもとに一通のメールが届く。送り主は、JAXAの川北史郎。彼は、打ち上げ失敗とともに破壊された地球観測衛星「だいち3号」の担当者だった。原因究明の作業に加わった。そうして、打ち上げ失敗から170日。考えられる要因が絞り込まれ、それらにすべて対策が打たれた。ようやく再チャレンジへの道筋が見えたのである。

先出の岡田氏はロケット一筋35年。前世代のロケットから開発を担当してきた。時には爆発という大きな事故も経験。トラブルのリスクを減らすことがいかに難しいかが身にしみていた。打ち上げ失敗も経験していた。その度に原因を究明し、ロケット開発を前進させてきた。

機体のすべての確認作業が終わり、2月16日、高さ57mのH3が組み立て塔から姿を現す。ゆっくりと発射台に移動した。岡田氏の言葉を借りれば、「前回より力強く頼もしく見えた。」たそうである。17日午前9時22分55秒。鹿児島県南種子町種子島宇宙センター大型ロケット発射場からH3が飛び上がった。緊張が張り詰める管制室。5分後「第2段エンジン第1回燃焼開始」とアナウンスが流れると「よっしゃー」と岡田氏が叫ぶ。小さな拍手も起きた。さらに10分後、小型衛星分離、そしてダミー衛星の分離。いずれにも成功した。初号機を失ってから、実に348日が経っていた。

失敗に向き合い、可能性のある事を絞り、原因を突き止め、解決していく。その結果が成功へと繋がるのである。うまくいかなかったときにこそ、学ぶことが多いものである。



令和6年度のPTA活動始まる

5月2日(木)の午後、錦江中学校にて学年・学級PTA、PTA総会、体育文化後援会総会が開催されました。

学年・学級PTAやPTA総会では、PTA全体や学級での年間の目標や取組等について確認がなされました。体育文化後援会総会では、学校で開催する各種検定(数学検定、漢字検定等)について、年度内生徒一回に限り申請に基づいて一定額の補助を行うことが承認されました。学習を含めた文化的活動にPTAからご協力いただけることに大変感謝します。総会終了後には、各PTA専門部がそれぞれに集まって年間活動の確認を行う専門部会も開かれました。令和6年度のPTA活動が本格的に始動したと実感できる一日でした。



それぞれの命を守る行動を学ぶ



5月9日(木)の6校時、錦江中学校では地震と津波対応の避難訓練が実施されました。訓練に関する説明を各クラスで受けた後、地震発生の校内放送で机の下に潜り込み、全員頭を守る行動をとりました。地震が収まった連絡を受け、まずは校庭に避難。その後、津波警報が発令されたとの想定で、全員河上神社に避難しました。

生徒の皆さんの訓練の様子を見られていた南部消防署の職員の方からは、「速やかにかつ落ち着いて避難行動ができていた」とお褒めの言葉を頂きました。また、消防署職員の方からは、「学校ばかりではなく自宅で地震が発生した場合、どのように行動するか、あるいはどのような準備をしておくかが大切」というご指導もありました。ご家庭でも地震の際の避難方法や何かあった場合の集合場所等を確認されてはいかがでしょうか？

活動しやすい環境を整えています

5月11日(土)土曜授業の日、中学校校庭の野球場バックネット周辺の樹木伐採を行いました。バックネットに木の枝が覆い被さっていたため、町教育委員会に相談したところ、素早く対応して頂きました。ありがとうございました。

